市長のまち探検

並木市長が訪問した企業や事業所、市民活動団体を紹介します。



Vol.15

今回紹介するのは

みつぎ農園

問合せ　秘書課（内線2014）



収穫する様子





みつぎ農園の皆さん

10月上旬、市内で米づくりに取り組む「みつぎ農園」の屈巣地区の田んぼを訪れました。

迎えてくださったのは三ツ木宏之さん、息子の佑介さん、娘の友希さん、そして佑介さんの同級生である荻原尊さん。実りの季節を迎えた田んぼで、米づくりへの思いやこだわりについて話を伺いました。

花を咲かせ、土を育てる

みつぎ農園の特徴は、「緑肥」を活用した土づくりです。緑肥とは、土を豊かにするために植物を栽培し、土へすき込むことで土の栄養分を補い、土壌環境を改善する役割があります。みつぎ農園では、レンゲなどの植物を育て、花が咲いた後に土へすき込み、肥料としています。

「花を咲かせると土の栄養が取られないですか」と市長が尋ねると、「植物が空気中の窒素を土に取り込んでくれて肥料の役割をしてくれるので、土が柔らかく、ふかふかになります。土壌に微生物も多く生息するようになります」と宏之さんが教えてくれました。土を育てることが、豊かな環境を守ることにもつながっています。



4月下旬、一面に咲くレンゲ
写真提供：みつぎ農園

スマート農業が支える現場

現在栽培しているお米は、「ゆうだい21」や「にじのきらめき」などの暑さに強い品種です。今年は猛暑の影響はほぼなかったそうですが、長雨に悩まされたと話します。また、天候だけでなく、カメムシなど病害虫の対策も欠かせないと言い、自然を相手にする仕事の難しさが伝わってきます。

こうした中で、米づくりを支えているのが農作業の負担を軽減するスマート農業です。

当日は、ドローンでの飛行の実演を見せていただきました。ドローンの操作は主に佑介さんが担当し、荻原さんがその作業をサポートしています。

「ドローンは、飛ぶ範囲や経路、高度、散布量を設定すると、自動で飛んでくれます。種や肥料の散布に欠かせない存在です」と説明してくれました。



農業用ドローンの飛行

次の世代へつなぐ

農業に携わって約1年という友希さんは、南フランス料理のシェフとして活躍していた経歴の持ち主です。「農業は体力的に大変です」と笑いながらも、「農園で栽培したもち米や小豆を生かした餅の加工品に挑戦したい」と話します。

宏之さんは「今は病院などに米を卸していて、一般販売はしていませんが、今後、開業予定の道の駅こうのすで、米や加工品を販売したいですね」と話してくれました。

宏之さんの知識と経験を次世代へ引き継ぐみつぎ農園。

土を育て、人を育て、農業を未来へつないでいくその確かな歩みを感じました。

懇談を終えて

環境に配慮した土づくりや先進技術を活用した農業の取組を知ることができました。また、みつぎ農園さんは、こども食堂へのお米の寄附など地域貢献にも取り組まれており、その温かい思いにふれることができました。

鴻巣の農業を支える次世代の皆さんの頼もしさを感じるとともに、その挑戦がこれからの地域農業の発展につながっていくことを期待しています。